

Godox 神牛

TTLリチウム電池丸型ヘッドカメラフラッシュ
TTL Li-ion Round Head Camera Flash

V1[®]



取扱説明書

深圳市神牛摄影器材有限公司
GODOX Photo Equipment Co., Ltd.

所在地/Addr: 深圳市宝安区福海街道塘尾社区耀川工业厂区房2楼1层~4层、4楼1层~4层/1st to 4th Floor, Building 2/1st to 4th Floor, Building 4, Yaochuan Industrial Zone, Tangwei Community, Fuhai Street, Bao'an District, Shenzhen 518103, China
電話 /Tel: +86-755-29609320(8062) ファックス /Fax: +86-755-25723423
電子メール/E-mail: godox@godox.com <http://www.godox.com>

705-V1N000-02

Made In China

FC CE RoHS  

本製品を使用する前に：

安全に本製品を使用することを確保するため、予め本取扱説明書をよく読んでください。必要な時にすぐに取り出せるよう大切に保管してください。

はじめに

この度は神牛の製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。




本カメラフラッシュはNikonシリーズカメラに適用し、i-TTL自動発光に対応できます。i-TTLフラッシュを使うことによって、より簡単な撮影体験を獲得でき、光線変化の複雑な条件で自動に正しいフラッシュ露出を獲得でき、撮影が手軽になります。本製品の特徴は主に下記の通りです。

- ラウンドヘッドフラッシュは反射カップ設計であり、均一で柔らかい光の効果を実現し、より多いクリエイティビティのある光の効果を創り出します。2WのLEDモデリングランプを補助光として撮影効果を確保します。
- 76Wsの最大レベル発光出力、81段の調光(1/1~1/256)
- 専門的なリチウム電池、高品質体験
2600mAhリチウムポリマー電池、トータルパワー480回発光、1.5秒快速リサイクル、優れた携帯性
- Nikon i-TTLに対応可能
i-TTL自動発光をサポートし、ワイヤレス多灯発光システムのマスターユニットまたはスレーブユニットとして利用することができ、撮影はより簡単で便利になります。
- ドットマトリックスLCD
直観的な表示、より簡単な操作
- 2.4Gワイヤレス伝送内蔵
レシーバとトランスミッター一体化、超遠距離、無限なクリエイティビティ
- 整った機能、無限な利用可能性
手動発光とストロボ発光モード、ハイスピードシンクロ/第二幕シャッターシンクロ/フラッシュ露出補正などのi-TTL機能をサポートします。
- 光学研究、出力安定
ハイスピード連続発光、回毎の出力輝度と色温度連続一致、光線均一分布
- ファームウェアアップグレード、互換性確保
オリジナルメーカーのカメラの更新に基いて、ソフトウェアをアップグレードできます。

警告



- ▲ 乾燥を保ってください。
- ▲ 自分勝手に本製品を分解しないでください。製品に故障が出た場合、本社または授權された専門業者よりチェックしたり、メンテナンスしたりしなければなりません。
- ▲ 子供の手が届かないところに保管してください。
- ▲ 分解したり、ショックしたり、押ししたり、火の中に投げたりしてはいけません。厳しく膨らむと、引き続き使用しないでください。50℃を超えた高温環境に置かないでください。
- ▲ フラッシュを人の目（特に赤ちゃんの目）に当てて発光しないでください。そうしないと、短時間に視力障害を起こす恐れがあります。
- ▲ 化学品、可燃性ガスまたは他の特殊物質の近くでフラッシュを使用しないでください。これらの物質は特殊な状況でフラッシュに対し瞬間的な強光過敏を起こし、火災または電磁干渉をもたらす恐れがあります。このような場合、関連する警告マークに注意してください。
- ▲ 本製品は防水できないため、雨天または湿っぽい環境で防水に注意してください。
- ▲ いかなる故障が起こった場合、直ちにフラッシュの電源をOFFにしてください。

目次

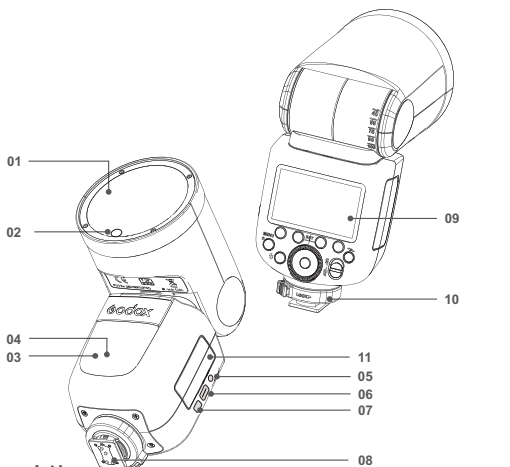
01	はじめに
02	警告
05	部品名称
	本体
	コントロールパネル
	LCD液晶ディスプレイ
	三つのモードにおける各種LCD液晶ディスプレイの表示
	標準添付品セット
	オプション部品
08	電池
09	モデリングランプ
09	フラッシュの着脱
10	電源管理
10	発光モード-- i-TTL自動発光モード
	 フラッシュ露出補正
	 ハイスピードシンクロ
	 第二幕シャッターシンクロ
12	発光モード-- M: 手動発光
13	発光モード-- RPT: ストロボ発光
14	ワイヤレスフラッシュ撮影: ワイヤレス(2.4G)伝送
	ワイヤレス設定
	グループモードの選択
	通信チャンネルの設定
	ワイヤレスIDの設定
	空きチャンネルスキャンの設定
	全自動ワイヤレスフラッシュ撮影
	M: 手動ワイヤレスフラッシュ撮影
	RPT: 手動ワイヤレスフラッシュ撮影
21	他の応用
	シンクロソケットトリガー
	モデリング発光
	AF補助光ランプ
	反射発光
	ZOOM: 発光カバー範囲の設定
	電池残量少警告
23	C.Fn: カスタム機能の設定
24	保護機能
25	仕様
26	トラブルシューティングガイド
27	ファームウェアのアップグレード
27	対応カメラリスト
27	メンテナンスと保守

VING 逸客

TTLリチウム電池ラウンドヘッドカメラフラッシュ

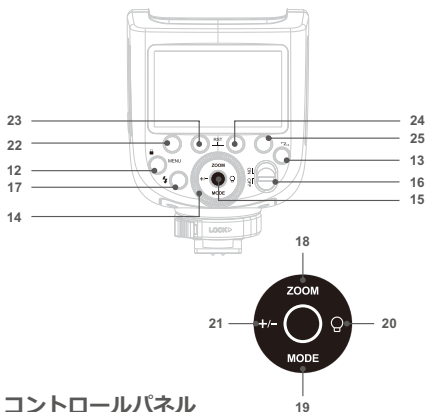
- 本取扱説明書に記載された操作ステップはカメラとフラッシュの電源がONにされているとします。
- ページ参照は (第**ページ) の形式で表示されます。
- 本取扱説明書は下記の警告マークを使います。
-  この「警告」マークは撮影問題を避けるための警告です
-  この「注意」マークは補充情報を提供することを表します。

部品名称



● 本体

- 01. フラッシュヘッド
- 02. LEDモデリングランプ (01~10調整)
- 03. ワイヤレスセンサー
- 04. AF補助光ランプ
- 05. シンクロソケット
- 06. Type-C USBポート
- 07. 電池取り外しボタン
- 08. ホットシュー
- 09. LCD液晶ディスプレイ
- 10. ホットシュー固定バックル
- 11. リチウム電池



● コントロールパネル

- 12. <MENU> フラッシュメニューボタン/ロックボタン
- 13. <Z> ワイヤレスボタン
- 14. 調整つまみ
- 15. 設定ボタン
- 16. ON/OFF電源スイッチ
- 17. <L> フラッシュテストボタン/リサイクルインジケータ
- 18. <ZOOM> 焦点距離
- 19. <MODE> 発光モード選択ボタン
- 20. <Q> モデリングランプの設定
- 21. <+/-> パワー調整
- 22. 機能ボタン1
- 23. 機能ボタン2
- 24. 機能ボタン3
- 25. 機能ボタン4

● LCD液晶ディスプレイ

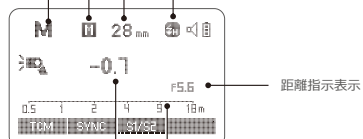
(1) i-TTL自動発光

Zoom :ズーム表示(第22ページ)

焦点距離(発光カバー/第22ページ)

- A** : 自動
- M** : 手動(第12ページ)
- H** : ハイスピードシンクロ(第11ページ)

i-TTL : i-TTL自動発光



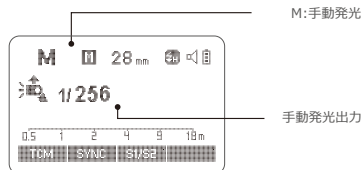
フラッシュ露出補正量

距離指示表示

有効発光範囲

- 注** ● ディスプレイに現在応用している設定だけを表示します。
- 機能ボタン1~機能ボタン4の上に表示する機能 (例えば<SYNC>と<M/A/B/C>)は設定の状態に従って変化します。
- ボタンまたはダイヤルを操作する時に、液晶ディスプレイは点灯します。

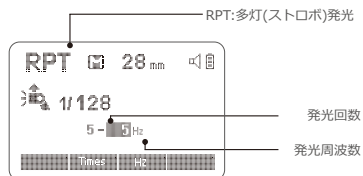
(2) M手動発光



M:手動発光

手動発光出力

(3) RPTストロボ発光



RPT:多灯(ストロボ)発光

発光回数

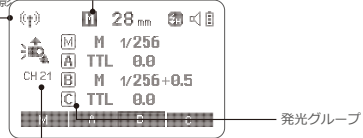
発光周波数

(4) ワイヤレス伝送撮影

● マスターユニット

発光モード

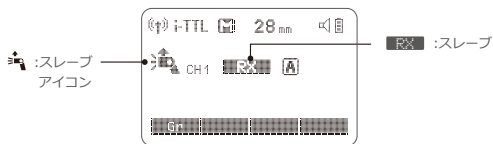
(+) : ワイヤレス伝送
ワイヤレス撮影



発光グループ

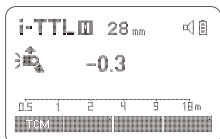
チャンネル

● スレープユニット

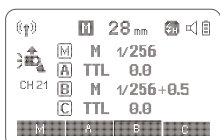


● 三つのモードにおける各種LCD液晶ディスプレイの表示

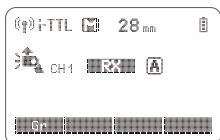
● 外付けモード



● 2.4Gワイヤレス伝送：マスターユニットそして



● 2.4Gワイヤレス伝送：スレープユニットとして



● 標準添付品セット

- 1.フラッシュ本体 2.リチウム電池 3.USB充電シート
4.充電ケーブル 5.充電器 6.マイクロベースシート
7.保護バッグ 8.取扱説明書



● オプション部品

弊社の下記の撮影アクセサリと組み合わせて使うと、最適な撮影効果と使用体験を得ることができます。

XProN、X1N TTLトリガー、AK-R1ラウンドフラッシュアクセサリなど。



電池

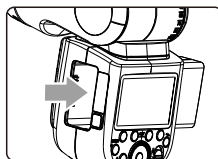
● 特徴

- 1.本製品はリチウム電池を使っており、500回の充放電サイクルをサポートし、耐用期間が長いです。
- 2.安全で信頼性が高く、内蔵回路は過充電保護、過放電保護、短絡保護を有しています。
- 3.付属している充電器を使う場合、3.5時間ぐらいで満充電になります。

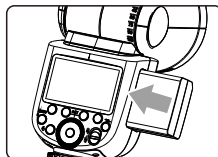
● 注意事項

1. 極性反転と短絡を避けてください。
2. 電池は防水機能を有していないため、電池を霧または水の中に浸さないでください。
3. 子供の手が届かないところに置いてください。
4. 充電する場合、電池を24時間以上放置しないでください。
5. 電池を涼しくて、乾燥と通気のところに保管してください。
6. 電池を火の近くまたは火の中に置かないでください。
7. 電池を廃棄する時に地元のルールに従って処理してください。
8. 3ヶ月以上電池を使わなかった場合、電池を満充電させてください。

● 電池の着脱



- 1 電池の取り外し
- 親指で電池ボタンを押して、手で下へ電池をプッシュすると、電池を取り出すことができます。



- 2 電池の装着
- 電池指示方向に従ってリチウム電池を電池ボックスに差し込み、バックルがロックするだけで良いです。

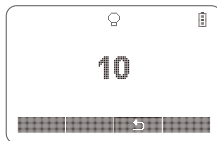
● 電池残量表示

リチウム電池を正しくフラッシュに取り付けると、フラッシュに給電できます。使用時に、フラッシュのパネルにある電池アイコンをチェックするだけで電池残量を把握できます。

電池残量表示	意味
3グリッド	電池残量はまだ十分あります
2グリッド	電池容量は減り始めました。
1グリッド	電池残量は低くなりました。
フレーム	残量が僅かで、直ちに電池を充電してください。
点滅	電池容量がすぐ切れます、この状態でフラッシュの操作をサポートしません。注：この状態になると、直ちに（10日内）充電してから、使用したり、放置したりすることができます。

モデリングランプ

モデリングランプボタンを押すことによって、モデリングランプ設定モードに入ります。設定ボタンを短押ししてモデリングランプをオンしたり、オフしたりします。モデリングランプがオンになった後、回転ボタンを回してモデリングランプの輝度を設定します。01~10というレベルがあります。



フラッシュの着脱



- 1 フラッシュの装着
 - フラッシュのつまみを左に回すと、完全にカメラのホットシューに差し込むことができます。



- 2 フラッシュのロック
 - フラッシュのつまみを右に回すと、ホットシューをロックできます。



- 3 フラッシュの取り外し
 - つまみにある押しボタンを押して、左に回すと、ホットシューのロックを解除できます。

電源管理

* ON/OFF電源スイッチで本製品の起動とシャットダウンを制御します。長時間にわたって使わない場合、電源を切ってください。本製品は電源自動シャットダウン機能を有しています。マスターユニットとして、長期間（約90秒）で操作されない場合、フラッシュは自動にシャットダウンします。シャッターボタンまたは本体のいずれかのボタンを半押しするだけでフラッシュを呼び覚ますことができます。スレーブユニットとして、60分（30分のオプションもあります）でも操作されなかった場合、フラッシュはスリープ状態に入り、この時に本体のいずれかのボタンを押すと呼び覚ますことができます。

Fn オフカメラで使用時に、カスタム機能を通じて「電源自動シャットダウン」機能をディスプレイにさせることができます（C.Fn-STBY 23ページ目）。
C.Fn 「スレーブユニット電源自動シャットダウンタイマー」の出荷デフォルト設定は60分であるが、カスタム機能を通じて30分を選択できます（C.Fn-RX STBY第 23ページ）。

発光モード-- i-TTL自動発光モード

このフラッシュはi-TTL自動発光、M手動発光とRPTストロボ発光という三つのモードを有しています。i-TTLモードで、カメラの測光システムは被写体から反射して返ってきた発光照明を計測し、自動に発光出力を調整し、被写体と背景を均一に露出させます。露出補正、ハイスピードシンクロ、第2幕シャッターシンクロ、絞りレビュー造影発光などの機能をサポートします。

* <MODE> モード選択ボタンを押して、三つの発光モードは順次に液晶ディスプレイに表示されます。

i-TTLモード

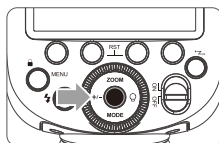
<MODE> モード選択ボタンを押して、フラッシュを<i-TTL>に設定すると、フラッシュはi-TTLモードに入ります。

- カメラのシャッターボタンを半押ししてフォーカシングを行い、絞り値と有効発光範囲はディスプレイに表示されます。
- シャッター開放前の瞬間で一回の予備発光を行ない、フラッシュはカメラからの情報をレシーブしてからメイン発光を行います。

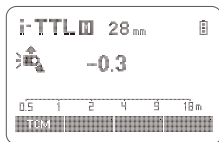
12 フラッシュ露出補正

本フラッシュは-3~+3段の間で、1/3段刻みにフラッシュ露出補正を調整します。環境のニーズでTTLシステムを微調整を行う必要がある場合、この機能は非常に便利です。

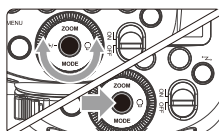
フラッシュ露出補正の設定



- 1 <+/-> ボタンを押して、パネルに<12>アイコンを表示させ、フラッシュ露出補正量はハイライト表示されます。



- 2 フラッシュ露出補正量の設定
 - 調整つまみを回し、露出補正量を設定します。
 - 「0.3」は1/3段を示し、「0.7」は2/3段を示します。

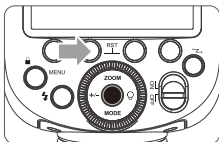


- 3 設定ボタンを押して、フラッシュ露出補正を確認します。

📷 ハイスピードシンクロ

ハイスピードシンクロ（FP発光）を使用すると、あらゆるシャッター速度でシンクロにフラッシュを使用できます。ハイスピードシンクロ発光は絞り優先を使って肖像を充填発光を行なう時に特別に便利です。

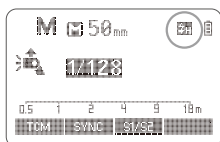
ハイスピードシンクロ <H> を選択します。



1 NIKONカメラ本体の設定において、フラッシュシンクロ速度を1/320秒（オートFP）または1/250秒（オートFP）に設定し、シャッターボタンを半押しし、フラッシュディスプレイにハイスピードシンクロ <H> アイコンが表示されます。この時に、フラッシュハイスピードシンクロ機能がスタートします。

2 カメラのダイヤルを回し、シャッター速度を1/250秒またはより高いシャッター速度に設定します。

3 現在、FPハイスピードシンクロ機能を使っているかを確認する必要があります。カメラのファインダーを通じてシャッター速度をチェックするだけで判断できます。シャッター速度は1/250秒またはより高い場合、ハイスピードシンクロ機能が起動されていることを示します。



- NIKONカメラ本体の設定において、フラッシュシンクロ速度を1/320秒（オートFP）または1/250秒（オートFP）に設定した場合、実際のシャッター速度と関係がなく、フラッシュのディスプレイにおける<H>アイコンが表示されます。
- ハイスピードシンクロを使用する時、シャッター速度は高いほど、有効な発光範囲は小さくなります。
- NIKONカメラ本体の設定において、フラッシュシンクロ速度を非（オートFP）オプションに設定してください。シャッターを半押しする時に、フラッシュのディスプレイにおける<H>アイコンが消えます。
- ストロボ発光を設定できません。
- 15回引き続きハイスピードシンクロ発光を行なった後、フラッシュの熱保護機能はイネーブルになる可能性があります。

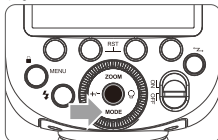
📷▶▶ 第二幕シャッターシンクロ

スロースピードシャッターを使用すると、被写体の後ろに1本の光線軌跡を作成できます。シャッターシャットダウン前の瞬間にフラッシュが発光します。

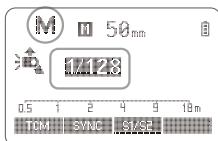
- カメラ本体の設定において、REAR発光方式を選択すると、後幕シンクロを実現できます。

発光モード-- M: 手動発光

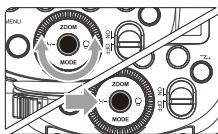
1/256パワー～1/1トータルパワーの間で、1/10段毎をステップとして発光出力を設定できます。正しいフラッシュ露出を獲得するため、手持ちの発光測光表を使用して必要な発光出力を決めてください。



1 <MODE>モード選択ボタンを押して、パネルに<M>を表示させます。



2 <+/->ボタンを押して選択し、調整つまみを回して発光出力を設定します。



3 設定ボタンを押して、発光露出補正を確定します。

S1光制御ユニットの設定

M手動発光モードで、S1機能を使うことができます。フラッシュは補助ランプとして使われ、多様な照明効果を創り出すことができ、手動発光環境に適用します。これはメインフラッシュの1回目発光とシンクロに発光をトリガーでき、その効果はワイヤレストリガーの使用と一致します。

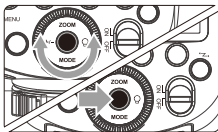
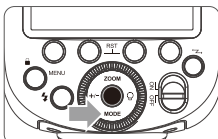
S2光制御ユニットの設定

M手動発光モードで、S2機能を使うことができます。フラッシュは補助ランプとして使われ、TTL発光環境に適用します。これは予備発光機能を有しており、1回予備発光機能を持ったカメラを使う時に光制御によってシンクロ撮影を実現できます。これはメインフラッシュの2回目発光とシンクロに発光をトリガーし、即ち、2回光制御トリガーを行うことができます。

- MモードだけでS1/S2光制御トリガーモードをサポートします。

発光モード：RPTストロボ発光

ストロボ発光を使うと、一連の快速発光を起こすことができます。これは1枚の写真において移動物体の複数イメージを撮影できます。発光周波数（秒毎の発光回数、Hzで表示します）、発光回数と発光出力を設定できます。



1 <MODE>発光モード選択ボタンを押して、パネルに<RPT>を表示させます。

2 発光周波数と発光回数の設定
●機能ボタン2<Times>を押して、発光回数を選択し、調整つまみを回して数字を設定します。

●機能ボタン3<Hz>を押して、発光周波数を選択し、調整つまみを回して数字を設定します。

3 <+/->ボタンを押して選択し、調整つまみを回して発光出力を設定します。

●設定ボタンを押して確認すると、あらゆる設定は表示されます。

シャッター速度の計算

ストロボ発光過程において、発光完了までシャッターは起動状態を保つべきです。下記の公式によってシャッター速度を計算してから、カメラを使って設定する。

発光回数/発光周波数=シャッター速度

例えば、発光回数は10であり、発光周波数は5Hzであると、シャッター速度は少なくとも2秒です。

▲フラッシュヘッドの過熱と損傷を避けるため、引き続き10回以上のストロボ発光連続撮影を行わないでください。10回発光した後、フラッシュを少なくとも15分冷却させてください。引き続き10回以上のストロボ発光連続撮影を行った後、フラッシュヘッドの過熱を防ぐため、発光は自動的に停止することがあります。このような状況が起こると、フラッシュを少なくとも15分冷却させてください。

●逆光の強い被写体の場合、暗い背景の前でストロボ発光を使うとより効果的です。
●三脚とリモコンスイッチの使用をおすすめします。
●発光出力は1/1と1/2である場合、ストロボ発光を設定できません。
●ストロボ発光時にも、「bulb」を使うことができます。
●発光回数は-と表示された場合、フラッシュはシャッターまたは電池が切れるまで引き続き発光します。下記の表に示すように、発光回数は限られます。

最大ストロボ発光回数

発光出力	Hz	1	2	3	4	5	6-7	8-9
1/4		8	6	4	3	3	2	2
1/8		14	14	12	10	8	6	5
1/16		30	30	30	20	20	20	10
1/32		60	60	60	50	50	40	30
1/64		90	90	90	80	80	70	60
1/128		90	90	90	90	90	90	80
1/256		90	90	90	90	90	90	80

発光出力	Hz	10	20-50	60-100
1/4		2	2	2
1/8		4	4	4
1/16		8	8	8
1/32		20	16	12
1/64		50	30	20
1/128		70	40	40
1/256		70	40	40

ワイヤレスフラッシュ撮影：ワイヤレス(2.4G)伝送

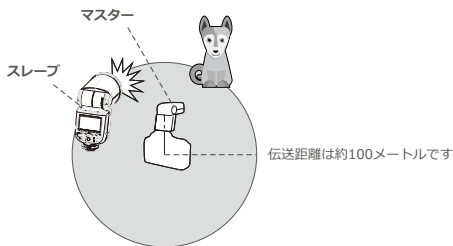
- ワイヤレスクリエイティブシステムは五つのスレーブユニットグループの設定をサポートし、TTL自動発光を実現します。TTL自動発光を通じて手軽に各種照明効果を獲得できます。
- マスターユニットによってグループ別に設定されたいずれかのTTL自動発光、手動発光とストロボ発光設定は自動的にスレーブユニットに伝送されます。この故に、撮影時に、スレーブユニットを操作する必要がありません。マスターユニットで各スレーブグループをそれぞれ設定するだけで良いです。
- この製品をマスターユニットに設定する時に、i-TTL/M/RPT/OFFという四つの発光モードで作動できます。

注意：

- 複数のスレーブユニットがあっても、Xシリーズトリガーはワイヤレスを通じてあらゆるフラッシュをコントロールできます。
- 本取扱説明書の中で、「マスターユニット」はカメラに取付けられたフラッシュを指し、「スレーブユニット」はワイヤレスを通じてコントロールするフラッシュを指します。

配置と操作範囲（ワイヤレスフラッシュ撮影例）

- スレーブユニットによる自動フラッシュ撮影

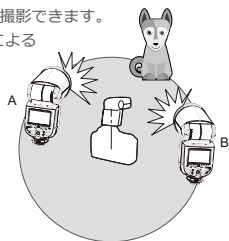


- 付属のマイクロブラケットを使ってスレーブユニットを固定すること。
- 撮影前にテスト発光とテスト撮影を行うこと。
- スレーブユニットの位置、周辺環境、天気状況などの影響によって、伝送距離はより短くなる可能性があります。

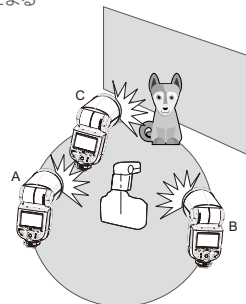
ワイヤレス多灯フラッシュ撮影

スレーブユニットを二つまたは三つのグループに分け、光量比（倍率）を変えると同時に、i-TTL自動フラッシュ撮影を行うことができます。また、各発光グループ（五つのグループまで）に対し、異なる発光モードを設定して撮影できます。

- 二つのスレーブグループによる自動フラッシュ撮影。



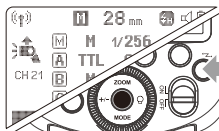
- 三つのスレーブグループによる自動フラッシュ撮影。



1、ワイヤレス設定

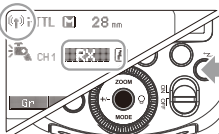
普通発光とワイヤレス発光を切り替えることができます。普通発光の場合、ワイヤレス設定を「オフ」に設定しなければなりません。

マスターユニットの設定



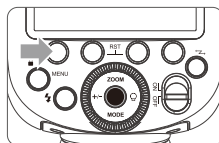
< lightning bolt > ワイヤレス設定ボタンを押して、パネルに < lightning bolt > を表示させます。

スレーブユニットの設定

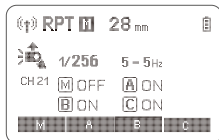


< lightning bolt > ワイヤレス設定ボタンを押して、パネルに < lightning bolt > と < lightning bolt > を表示させます。

2、グループモードの選択



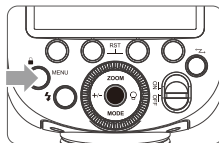
1 機能ボタン
1<M>グループを短押しすると、OFF/TTL/Mの間で切り替えることができ、一種を選択して、マスターユニットの発光モードとします。



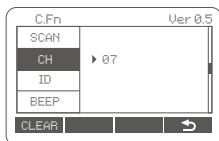
2 MODEボタンを短押しすると、RPTモードに切り替えることができます。

3、通信チャンネルの設定

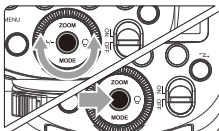
撮影現場に一つ以上のワイヤレス発光システムがある場合、通信チャンネルを変更することによって信号の干渉を防止できます。マスターユニットとスレーブユニットは同じチャンネル番号に設定されていることを確保するだけで良いです。



1 <MENU>メニューボタンを押して、カスタムCH設定に入ります。



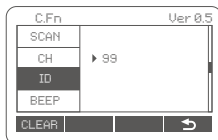
2 カスタム<CH>モードで、調整つまみを回して1~32からチャンネルを選択します。



- 3 設定ボタンを押して確認します。

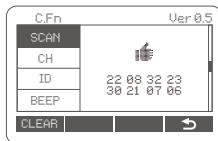
4、ワイヤレスIDの設定

信号の干渉を避けるため、ワイヤレス通信チャンネルを変更するほかに、ワイヤレスIDを変更することによって干渉を防ぐこともできます。マスターユニットとスレーブユニットを同じチャンネルとワイヤレスIDに設定するだけで良いです。C.Fn IDに入り、01~99からいずれかの数字を選択して、ワイヤレスIDがオンになり、OFFを選択すると、ワイヤレスIDがオフになります。



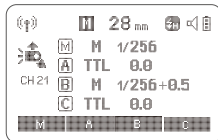
5、空きチャンネルスキャンの設定

他人は同じチャンネルを使うことによる干渉を避けるため、空きチャンネルスキャン機能を使うことができます。カスタムメニューに入ってSCANオプションを探し、STARTに設定すると、1%~100%のスキャンが表示されます。スキャンが完了すると、8グループの空きチャンネルが表示されます。



6、i-TTL: 全自動ワイヤレスフラッシュ撮影

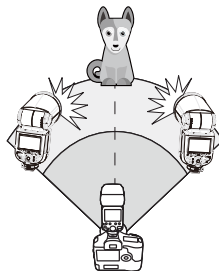
一つのスレーブユニットによる自動フラッシュ撮影



- 1 **マスターユニットの設定。**
 - カメラに取付けたV1Nをマスターユニットに設定します。
 - M/A/B/CはいずれもそれぞれTTLを設定できます。
- 2 **スレーブユニットの設定。**
 - ワイヤレスにコントロールされるV1Nをスレーブユニットに設定します。
 - A/B/C/D/Eから選択できます。
- 3 **伝送チャンネルのチェック。**
 - ワマスターユニットとスレーブユニットのチャンネルを同じに設定します(第16ページ)。
- 4 **カメラとフラッシュの配置。**
 - カメラとフラッシュを示された範囲内に配置します(第15ページ)。

- 5 フラッシュは準備に完成しているか否かをチェックします。
 - マスターフラッシュ準備済みインジケータは点灯しているか否かをチェックします。
- 6 **操作のチェック。**
 - マスターフラッシュのテスト発光ボタン<F>を押します。
 - スレーブユニットは発光します。スレーブユニットは発光しないと、操作範囲内にあるか否かをチェックします。

複数スレーブユニットによる自動フラッシュ撮影



より大きい発光出力を必要としたり、より手軽に照明を行なったりする場合、スレーブユニットの数量を増やして単独のフラッシュとして発光させます。スレーブユニットを追加する場合、「一つのスレーブユニットによる自動フラッシュ撮影」と同じステップを使って、いかなる発光グループ(A/B/C/D/E)を設定できます。スレーブユニットの数量を増やしたり、マスターフラッシュの発光はONに設定されたりした場合、あらゆるフラッシュは同じ発光出力で発光し、トータル発光出力が標準露出に達するように自動制御を行います。

- 6 ●スレーブユニットの自動オフ電源がイネーブルになっている場合、マスターユニットのテスト発光ボタンを押してスレーブユニットをオンにさせます。カメラの測光タイミング操作期間においてテスト発光を行なうことができます。
- スレーブユニットの自動オフ電源がイネーブルになるまでの時間を変えることができます(C.Fn-RX STBY#23ページ)。

全自動ワイレス発光の使用

マスターユニットで設定されたフラッシュ露出補正と他の設定もスレーブユニットで自動に設定できます。スレーブユニットを操作する必要はありません。普通フラッシュ撮影と同じ方法によって下記の設定を使ってワイレスフラッシュ撮影を行うことができます。

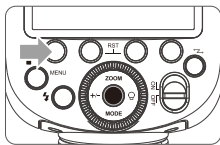
- フラッシュ露出補正 (/第10ページ)

マスターユニットについて

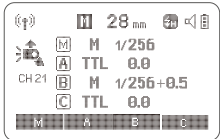
二つまたはそれ以上のマスターユニットを使うことができます。マスターユニットを搭載した複数のカメラを準備することによって、同じ照明 (スレーブユニット) を保つ期間でカメラを変えて撮影できます。

7、M: 手動ワイレスフラッシュ撮影

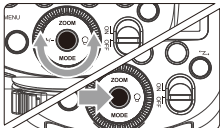
手動発光のワイヤレス (多灯発光) 撮影によって、各スレーブユニット (発光グループ) に異なった発光出力を設定して撮影を行うことができます。マスターユニットであらゆるパラメーターを設定します。



- 1 発光モードを<M>に設定します。



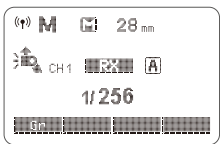
- 2 発光出力の設定
●機能ボタン
1/2/3/4<M/A/B/C>を押し、調整つまみを回して発光グループに発光出力を設定し、また、設定ボタンを押して確認します。



- 3 写真の撮影
●各グループは設定された発光光量比で発光します。

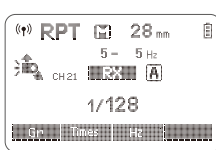
<M> 発光モードの設定

直接にスレーブユニットを操作して、手動に手動発光またはストロボ発光を設定できます。



- 1 スレーブユニットを設定します。(第16ページ)。
- 2 <M> 発光モードを設定します。
●<MODE> モード選択ボタンを押して、パネルに<M>を表示させます。
●手動発光出力を設定します。(第12ページ)。

8、RPT:手動ワイレスフラッシュ撮影



- 1 <RPT>ストロボモードを設定します。
●<MODE> モード選択ボタンを押して、パネルに<RPT>を表示させます。
●ストロボ発光を設定します。(第13ページ)。

！ 神牛2.4Gワイレスミスフラッシュの原因及びその解決方法

- 1.外部環境2.4G信号干渉(例えばワイレススペースステーション、2.4Gwifiルーター、ブルートゥースデバイスなど)
→トリガーのチャンネルCH設定 (+10お勧めします) を調整し、干渉のないチャンネルを探し、または動作中に他の2.4Gデバイスをオフにしてください。
- 2.フラッシュのリサイクルは完了しているか、リサイクルスピードは連続撮影スピードに間に合うか(フラッシュが準備済みで、インジケーターが点灯しています)、過熱保護または他の異常があるかを確認してください。
→フラッシュのレベルを低く調整してください。TTLモードである場合、Mモードに変更してください(TTLモードで1回予備発光してみる必要があります)。
- 3.トリガーとフラッシュとの距離は近過ぎますか(距離0.5m以下)。
→トリガーで「近距離ワイレスモード」をオンにしてください。
X1シリーズ: トリガーボタンを押したまま、起動し、インジケーターが2回点滅します。
Xproシリーズ: C.Fn-DISTを0~30mに設定してください。
- 4.トリガーとレシーバサイドデバイスは電池残量少状態にありますか。
→電池を交換してください(トリガー電池は、使い捨ての1.5Vアルカリ電池をお勧めします)。

他の応用

シンクロソケットトリガー

シンクロソケットの規格はΦ2.5mmであり、ここにシンクロケーブルまたはトリガープラグを差し込んでフラッシュをシンクロトリガーできます。

モデリング発光

カメラに被写界深度プレビューボタンがある場合、このボタンを押すと、1秒の連続発光を行なうことになります。この現象はモデリング発光と呼ばれています。モデリング発光を通じて被写体のライティング効果と照明バランスをチェックできます。ワイヤレス撮影と普通フラッシュ撮影はどちらもモデリング発光を行なうことができます。

- ▲ ● 引き続き10回以上モデリング発光をトリガーしないでください。引き続き10回モデリング発光した後、フラッシュヘッドの過熱または損傷を防ぐため、少なくともフラッシュを10分冷却させてください。

AF補助光ランプ

輝度またはコントラストの低い撮影状況で、フラッシュの内蔵AF補助光ランプはオンになり、オートフォーカスをより易くさせます。フォーカシングし難い場合、赤色補助光ランプは点灯します。正しくフォーカシングした場合、補助光ランプは消灯します。

AF補助フォーカシング機能をオフにしたい場合、C.Fn設定で「AF」を「OFF」にしてください。

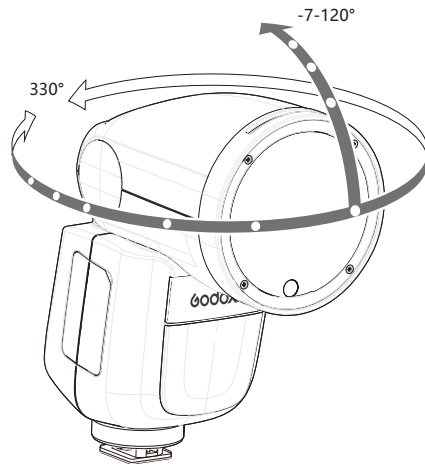
- ● 使用中に、AF補助光ランプは点灯しない場合、カメラは正しくフォーカシングしているからです。

位置	有効範囲
中央	0.6~10メートル/2.0~32.8フィート
エッジ	0.6~5メートル/2.0~16.4フィート

反射発光

フラッシュヘッドを壁または天井に向かせることによって、発光は被写体を照らす前に壁に反射されます。こうして、被写体背後の陰影を軽減し、より自然的な撮影効果を得ることができます。これは反射発光と呼ばれています。

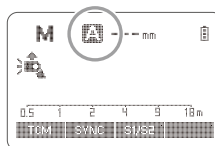
フラッシュヘッドを回して反射方向を設定します。



- ● 壁または天井は遠過ぎると、反射発光が弱過ぎて、露出不足が起こるおそれがあります。
- ● 効果的な反射を得るため、壁または天井は平たくて白くされるべきです。反射表面は白くない場合、写真にカラーキャストが出る恐れがあります。

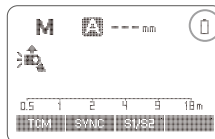
ZOOM: 発光カバー範囲の設定

このフラッシュには自動ズームと手動ズームという二つのズーム方法があります。発光カバー範囲を設定することによって、28~105mmのレンズ焦点距離とマッチできます。自動ズームの時、焦点距離はカメラのズームレンズの変化に従って変化し、最適な発光効果を提供します。



- 手動ズームの時に、<ZOOM>ズームボタンを押します。
- 調整つまみを回して発光カバー範囲を変更します。
 - <A>モードで、自動に発光カバー範囲が設定されます。

- ● 手動で発光カバー範囲を設定する場合、レンズの焦点距離をカバーすることを確保してください。こうして、写真に陰影のあるエッジが出ることを避けることができます。



- 電池残量少の場合、電池符号< >が減ります。この時に、電池を交換してください。

C.Fn：カスタム機能の設定

下記の表を参照して、カスタム機能を使用して設定します。

カスタム機能符号	機能	設定符号	設定と説明
m/ft	距離指示の表示	m	メートル
		ft	フィート
AF	オートフォーカス 補助光発光	ON	オン
		OFF	オフ
STBY	オートスリープの設定	ON	オン
		OFF	オフ
RX STBY	スレーブユニットは自動に 電源タイマーをオフにします	60min	60分
		30min	30分
SCAN	空きチャンネルのスカン	OFF	オフ
		START	空きチャンネルスカン開始
CH	チャンネルの設定	01~32	32個のチャンネル選択可能
ID	ワイヤレスID	OFF	オフ
		01-99	01-99からいずれかの数字を選択してオープンします
BEEP	ブザー	ON	オン
		OFF	オフ
LIGHT	バックライト点灯時間	12sec	12秒後に自動消灯
		OFF	常時消灯
		ON	常時点灯
LCD	液晶ディスプレイコントラスト	-3~+3	七つのレベル

1. <MENU> ボタンを押してC.Fnメニューを表示させます。右上にある「Ver x.x」はソフトウェアバージョンを示します。

2. カスタム機能符号の選択

調整つまみを回してカスタム機能符号を設定します。

3. 設定の変更

●設定ボタンを押すと、カスタム機能符号は点滅します。

●調整つまみを回して欲しい番号を設定し、設定ボタンを押して確認します。

●カスタム機能を設定した後、<MENU> モード選択ボタンを押すと、カメラは撮影できるようになります。

4. C.Fn状態で、「Clear」ボタンを2秒以上長押しすると、「OK」が表示され、C.Fnのパラメーターをリセットできます。

保護機能

1. 熱保護

●フラッシュヘッドの過熱と損傷を防ぐため、1/1パワーで30回を超えた快速連続発光を行わないでください。30回連続発光を行なった後、少なくともフラッシュを10分冷却させます。

●30回を超えた連続発光を行なった後、引き続き多くの発光を行なうと、フラッシュ内部の過熱防止機能はイネーブルになる可能性があり、リサイクル時間は10秒以上になります。この現象が起こった場合、フラッシュを約10分間冷却させると、フラッシュは正常に戻ります。

●熱保護が起動すると、ディスプレイに符号が表示されます。

熱保護機能がイネーブルになる連続発光回数：

パワー	回数
1/1	30
1/2 +0.7	40
1/2 +0.3	50
1/2	60
1/4(+0.3,+0.7)	100
1/8(+0.3,+0.7)	200
1/16(+0.3,+0.7)	300
1/32(+0.3,+0.7)	500
1/64(+0.3,+0.7)	1000
1/128(+0.3,+0.7)	
1/256(+0.3,+0.7)	

ハイスピードモードで、熱保護がイネーブルになる連続発光回数：

パワー	回数
1/1	15
1/2(+0.3,+0.7);	20
1/4(+0.3,+0.7)	30
1/8(+0.3,+0.7);	
1/16(+0.3,+0.7)	40
1/32(+0.3,+0.7);	
1/64(+0.3,+0.7);	
1/128(+0.3,+0.7);	50
1/256(+0.3,+0.7)	

2. 他の保護

●デバイスの安全を保证するため、システムは随時に予防保護を行います。下記の提示符号は参照されます。

LCD表示	警告内容
E1	フラッシュのリサイクルシステムに問題があり、リサイクルトリガーできません。フラッシュを再起動してください。再起動しても問題を解決できない場合、メンテナンスする必要があります。
E2	デバイスの内部温度が高過ぎるため、トリガーを中止して10分間放置してください。
E3	フラッシュチューブ両端の電圧は高過ぎるため、メンテナンスしてください。
E9	ファームウェアアップグレードに誤りがあり、正しいファームウェアアップグレードを行なってください。

仕様

タイプ	V1N
対応カメラ	Nikonカメラ(i-TTL自動発光)
パワー (1/1レベル)	76Ws
フラッシュカバー範囲	28 - 105mm ●自動ズーム(自動にレンズ焦点距離と画像サイズに合う発光カバー範囲を設定します) ●手動ズーム ●フラッシュヘッド回転/傾斜、水平0~330° 垂直-7°~120°(反射発光)
発光持続時間	1/300秒-1/20000秒
●露出制御	
露出制御システム	i-TTL自動発光、手動発光
フラッシュ露出補正(FEC)	手動、フラッシュブラケット露出: ±3段で1/3段刻みに調整します(手動フラッシュ露出補正とフラッシュブラケット露出と組み合わせて使うことができます)
シンクロ方式	ハイスピードシンクロ(最高1/8000秒)、 先幕シンクロ、後幕シンクロ
ストロボ発光	あり(回数: 90回; 100Hz)
●ワイヤレス発光(ワイヤレス2.4G伝送)	
ワイヤレス機能	マスターユニット、スレーブユニット、オフ
マスターユニットグループ	M, A, B, C
制御可能スレーブユニットグループ	A, B, C, D, E (グループD/EはXシリーズのトリガーによって制御できます)
伝送範囲(約)	100m
チャンネル	32グループ: 1~32
ID	01~99
モデリング発光	カメラの被写体深度プレビューボタンを使って発光します
AF補助光	
有効範囲(約)	中央: 0.6-10メートル / エッジ: 0.6-5メートル
●LEDモデリングランプ	
パワー	2w
色温度	3300K±200K
●電源	
リチウム電池内蔵	7.2V/2600mAh リチウム電池
リサイクル時間	<1.5秒、フラッシュ準備完了、LED緑色インジケータ 一点灯
フルパワー発光回数	約480回
節電	90秒くらい操作しないと、フラッシュは自動に電源オフになります。スレーブユニットに設定された場合、60分後に、スリープ状態に入ります。
●シンクロトリガー方式	ホットシュー、2.5mmシンクロケーブル
●サイズ	
体積	76*93*197 mm
正味重量(電池を含まない)	420g
重量(電池を含む)	530g

トラブルシューティングガイド

問題に合う場合、このトラブルシューティングガイドを参照してください。

フラッシュは発光しません。

- フラッシュはしっかりとカメラに取り付けられていません。
→フラッシュの固定シートをしっかりとカメラに取り付けてください。
- フラッシュとカメラの電子接点は汚くなっています。
→接点をきれいにしてください。

電源自動オフ

- マスターユニットとして、90秒操作しないと、電源自動オフ機能はイネーブルになります。
→シャッターボタンまたは本体のいずれかのボタンを半押しすると、呼び覚ますことができます。
- スレーブユニットとして、60分(30分も選択できます)で何も操作しないと、フラッシュはスリープ状態に入ります。
→本体のいずれかのボタンを押すと、呼び覚ますことができます。

自動ズームは作動しません。

- フラッシュはしっかりとカメラに取り付けられていません。
→フラッシュの固定シートをしっかりとカメラに取り付けてください。

フラッシュ露出不足または露出過度

- ハイスピードシンクロの使用。
→ハイスピードシンクロを使おうと、有効な発光範囲はより小さくなります。被写体を示された有効範囲内に置いてください。
- フラッシュは手動露出モードに設定されています。
→i-TTLモードに設定したり、発光出力設定を変更したりしてください。

写真に暗い部分があるか、被写体は一部だけ照らされています。

- カメラレンズの焦点距離はフラッシュのカバー範囲を超えています。
→フラッシュの現在カバー焦点距離をチェックしてください。本製品のフラッシュヘッドズーム範囲は中判システムの28~105mmです。

ファームウェアのアップグレード

- 本製品のUSBポートはType-Cポートで、Type-C USBケーブルを使ってください。
- 本製品のファームウェアをアップグレードする時に、Godox G3プログラムソフトウェアのサポートが必要です。ファームウェアをアップグレードする前に、「Godox G3ファームウェアアップグレードソフトウェア」をダウンロード・インストールしてから、相応するファームウェアを選択してください。
- ファームウェアをアップグレードした後、その取扱説明書は最新電子バージョンをご参照ください。

対応カメラリスト

本製品は下記のNikonシリーズのカメラタイプに対応できます。

D5	D4	D850	D500	D750	D810	D610	D800	D300S
D300	D7500	D5300	D5200	D5100	D5000	D3300	D3200	D3100
D3000	D200	D100	D70S	D60	D90	D7100	D7000	Z7
Z6								

注：

1. このリストに記載されたのはテストされたカメラのタイプであり、あらゆるNikonシリーズのカメラを含んだものではありません。他のカメラのタイプについて、ユーザーは自分でテストしてください。
2. 弊社は予告なしにこのリストに記載された内容を変更することがあります。

メンテナンスと保守

- フラッシュは作動している時に異常が起こった場合、直ちに電源を切って、原因を究明してください。
- 本体を振動させないでください。ふだん、本体表面のちりを掃除してください。
- 本体にわずかに熱が発生することは正常です。特別な需要はない場合、連続にトリガーしないでください。
- フラッシュのあらゆるメンテナンスは弊社の指定したオリジナル部品提供可能な修理業者より担当します。
- 保証期間は1年間です。フラッシュチューブなどの消耗品は保証範囲内に属されません。
- 自分勝手にフラッシュを修理した場合、フラッシュの1年間保証期間が取り消されます。メンテナンスする時、関係費用を受け取ります。
- 本製品は故障が起こったり、水に濡れられたりした場合、専門者にメンテナンスされてから、はじめて使用できます。
- 弊社は予告なしに技術を変更することがあります。